



基本構想



第5次豊富町まちづくり計画の 意義と構成

~町民とともに進めるまちづくり計画~

計画策定の意義と性格

人口減少・少子高齢化の進行を背景に、地域やコミュニティの存続の問題、高齢化による社会保障費の増大など、本町を取り巻く環境が大きく変化しています。また、グローバル化*や高度情報化の進展、経済構造の変化は私たちの暮らしに大きな影響を与え、将来的にも見通しにくい社会情勢になっています。

しかし、そのような中でも、まちの持続的な発展を図るためには、長期的な展望のもと、まちづくりの基本的な方向性を明らかにすることが必要です。

また、人口減少の時代だからこそ、まちが一体となって、町民と協働でまちづくりを進めることがますます重要になっています。

さらには、これからの10年間という長期的なまちづくりにおいて、町民とともにまちづくりを行っていくためには、本町が“どのようなまち”を目指し、“どのような方向”にまちづくりを進めていくのかを『共有』することが大切です。

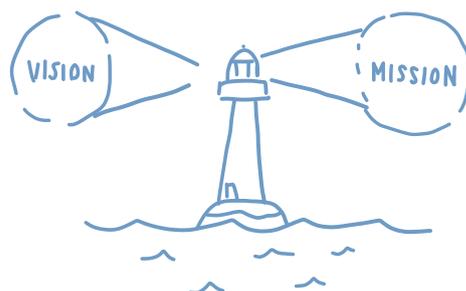
私たちのまちには、本町ならではの魅力や資源、価値がたくさんあります。さまざまある課題に対して、これらの強みを共有し、活かしながらまちづくりを進めていくことで、より良いまちをつくっていくことができます。

本計画は、目指すまちの将来像に向かって、どのように進んでいくかをしっかりと町民と分かち合い、ともに行動していくための計画です。

ビジョン型の計画

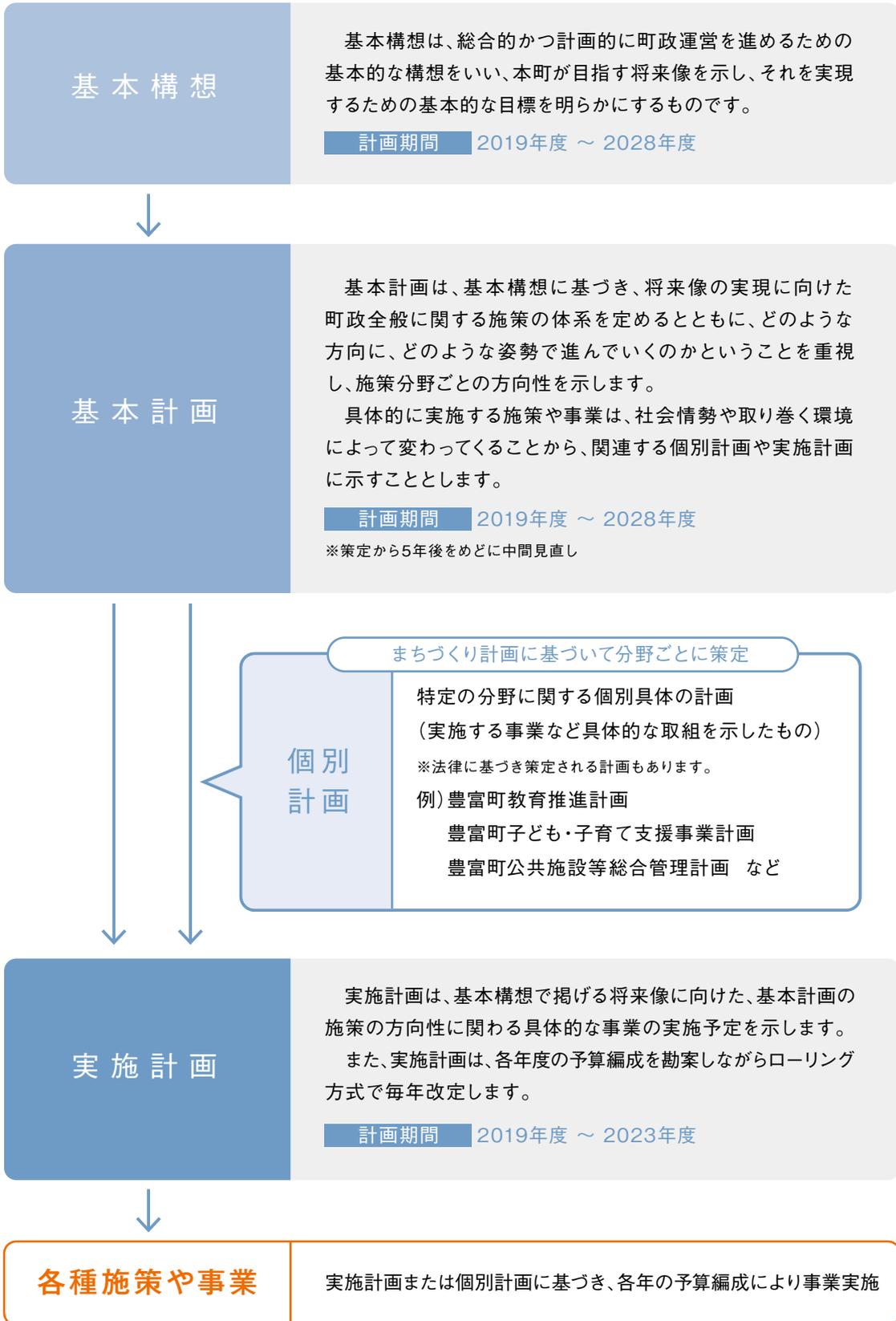
この第5次豊富町まちづくり計画は、長期的な展望に立ち、本町の目指すべき将来像を明確にし、その実現のために、町民がともに考え、ともに行動するための総合的な指針となる最上位計画となります。社会環境が急速に変化していく時代にあっても、協働の理念をもとにまちづくりを進めていくための使命(ミッション)と将来像(ビジョン)を明らかにします。

また、実現に向けた基本目標を定めるとともに、具体的な推進施策は別に策定する個別計画などにより推進します。



計画の構成と期間

本計画は、計画期間を2019年度から2028年度の10年間とし、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成します。



豊富町を取り巻く環境

我が国では時代とともに社会環境が大きく変化してきており、グローバル化や高度情報化の進展、資源・エネルギー事情の変化が私たちの日々の暮らしや経済活動などに大きな影響を与えています。

さらには、急速に進行する人口減少と少子高齢化など人口構造の変化にも直面しています。

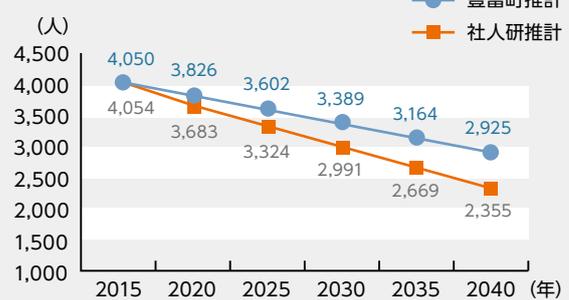
これまでに育ててきたさまざまな産業や今ある自然環境を次世代に引き継ぐためにも、社会情勢の変化と地域のニーズを的確にとらえ、長期的な展望に立って施策を展開することが必要です。

人口減少・少子高齢社会の影響

我が国の人口は、2008年の約1億2,800万人をピークに減少を続け、国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2065年には、約8,800万人にまで減少することが見込まれています。将来にわたって人口増加が見込まれないことに加え高齢化も進行していくことから、社会全体を維持することがますます困難な時代となっています。

人口減少と少子高齢化の進行は、労働力の減少や消費の低下、さらには経済規模の縮小による地域の活力の低下に影響を与えます。加えて、税収減や社会保障費の増大、地域コミュニティの機能低下など社会全体に大きな影響を及ぼすことが懸念されています。

豊富町の将来人口の見通し



本町の人口は平成27年国勢調査では4,054人となり減少傾向が進んでいます。豊富町人口ビジョン(平成28年2月策定)では、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年には総人口が2,355人まで減少すると推計されている中、今後の総合戦略の推進により人口減少を抑制し、2040年の本町の人口目標を2,925人としています。

地方分権・地方創生

国に集中している権限や財源を地方自治体に移譲し、地域の特色を生かした自治体運営を推進する地方分権改革が進められています。また、近年では、まち・ひと・しごと創生法^{*}に基づく地方創生が進められ、首都圏への一極集中の是正など、地方の魅力や特徴を活かした自立的で持続的な地域社会の構築が求められています。

環境問題やエネルギー問題の深刻化

地球温暖化や大気・海洋汚染の問題など地球レベルでの環境問題が深刻化しています。

環境への負荷が少ない持続可能な社会の構築に向けて、低炭素型のライフスタイルやビジネススタイル^{*}への転換を促進するとともに、環境保全意識の向上を図ることなどが求められています。

安心・安全志向の高まり

東日本大震災や北海道胆振東部地震などの大規模災害が発生し、国を挙げて自然災害に備えた国土の強靱化が進められています。また、近年では異常気象による豪雨や台風などが全国各地で発生しており、防災意識の向上を図るとともに、防災体制の強化が求められています。

日常生活においては、子どもや高齢者の見守りの必要性が高まっているほか、交通事故や特殊詐欺*による被害などの身近な暮らしを脅かす事件が発生するなどさまざまな不安が高まっています。

将来にわたって、安全で安心して暮らせる社会の実現が求められています。

グローバル化の進展

我が国では経済社会全体の国際化が進んでいます。特に、アジア圏をはじめとした海外から北海道へ訪れる観光客の増加などは著しいものがあります。

また、TPP*（環太平洋パートナーシップ協定）のような多国間経済連携協定への参加に向けた動きが顕在化し、特に農業分野では、国内農業保護と振興への対応が求められています。

移動と交流の拡大

あらゆる分野での技術革新に伴い、グローバル化がさらに進んでいくことから、世界から人・モノ・カネ・情報を引き付けることが可能となります。そのため、それらを有効に活用して、交流を活発化させることが地域の価値を向上させる上で重要になります。

人の移動では、観光はもちろん二地域居住やテレワーク*などの就労を促し、モノやカネの移動は産業と密接につながっていきます。加えてICTなどのネットワーク化によって、さまざまな交流からイノベーション*への展開や拡大が期待されています。

ライフスタイルや価値観の多様化

社会環境の変化から、人々の価値観や意識は、単純なお金の価値だけではない心の豊かさへ、量よりも質を重視する社会へと変わってきています。

また、通信インフラ*の発展や経済・流通のグローバル化に伴い、モノからコトを楽しむ暮らし、時間や空間をシェア*する暮らしなども広がりつつあります。

ライフスタイルや雇用形態も大きく変化しており、二地域居住*や田園回帰*などの意識も高まっています。

第4次産業革命による技術革新

ICT*化（情報通信技術化）の進展は著しく、SNS*（ソーシャルネットワーキングサービス）の普及などにもより、世界との距離も一層近くなっています。

また、ビッグデータ*、AI*（人工知能）、IoT*（モノのインターネット）、ロボットなどに代表される技術革新が急速に進んでおり、近い将来、あらゆるモノ・コトが実現可能になる時代が到来するといわれ、それらは新しいインフラとして、生活に劇的な変化をもたらすことが予想されています。



豊富町の資源、 ポテンシャル

～ 三大資源 + ∞(無限大)の資源 ～

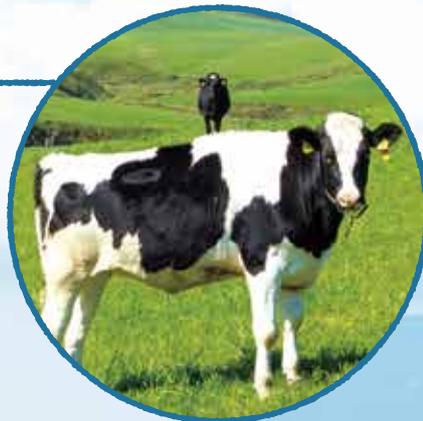
本町には、ブランドとなっている酪農のほか、世界でも珍しい豊富温泉、希少なサロベツ湿原といった町民だれもが自慢できる三大資源があります。

そして、そのような豊かな自然に囲まれた暮らし、優れた資源をしっかりと守り、
支え続けている人がまちの最大の財産でもあります。

これら本町ならではの資源やポテンシャルを最大限に活かしながらまちづくりを進めます。

1 酪農

豊富町は、広大な自然の中、まちの地域経済を支えてきた酪農があり、ここで生産される豊富(サロベツ)牛乳はまちを代表するブランドになっています。基幹産業である酪農は多くの人が関わって発展してきており、酪農の維持と成長は持続可能なまちづくりにおいて重要になります。





2 豊富温泉

世界に2つ、日本にはただ1つしかないともいわれる油分を含んだ豊富温泉は、観光地としての滞在だけでなく、皮膚疾患でご苦勞されている湯治客の命の拠りどころになっています。また、豊富温泉をきっかけに、全国に豊富町のファンが広がっています。

3 サロベツ湿原

利尻礼文サロベツ国立公園の一部になっているサロベツ湿原は、日本最大の高層湿原であり、湿原を彩る花々が美しく雄大な自然景観をつくり出しているほか、渡り鳥をはじめとした希少な動植物が豊かな命を育んでいます。



資源を守り支え続ける人

そして、これらの三大資源の魅力と価値を守り、支え続けている人がまちにはたくさんいます。

このような資源に関わる人こそが
まちの最大の財産でもあります。

他にもたくさん資源や魅力、財産が豊富町にあります。
まちのポテンシャルは三大資源とそれに関わる人を中心に、
無限の広がりが期待されています。

